

# 長崎大学 教育学部



〒852-8521 長崎市文教町1-14 ☎095(847)1111〔代〕  
(教育学部) <http://www.edu.nagasaki-u.ac.jp>

聴音 楽典

◆聴 音〈情報教育課程〉芸術文化コース（推薦入試）



◆聴 音〈情報教育課程〉芸術文化コース（前期日程）



◆楽典（推薦入試）

1 次の①～⑩の音のドイツ音名，日本音名をそれぞれ答えなさい。

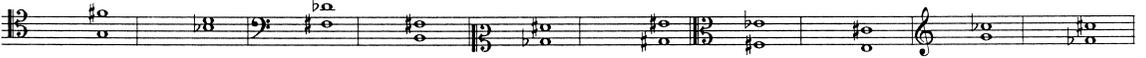
①      ②      ③      ④      ⑤      ⑥      ⑦      ⑧      ⑨      ⑩



ドイツ音名	日本音名	ドイツ音名	日本音名	ドイツ音名	日本音名
① _____	_____	② _____	_____	③ _____	_____
④ _____	_____	⑤ _____	_____	⑥ _____	_____
⑦ _____	_____	⑧ _____	_____	⑨ _____	_____
⑩ _____	_____				

2 次の①～⑩の音程を答えなさい。

①      ②      ③      ④      ⑤      ⑥      ⑦      ⑧      ⑨      ⑩



① _____	② _____	③ _____	④ _____	⑤ _____
⑥ _____	⑦ _____	⑧ _____	⑨ _____	⑩ _____

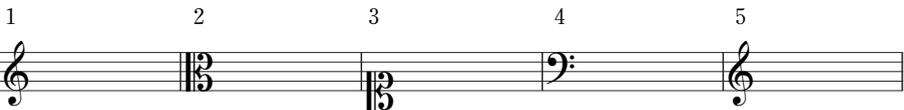
3 次の例にならいう右の表を考え以下の問題に答えなさい。

例

e-moll	G-dur	g-moll
a-moll	C-dur	c-moll
d-moll	F-dur	f-moll

1	2	3	4	5
6	7	8	9	10
fis-moll	A-dur	11	12	13
14	15	16	17	18
e-moll	G-dur	g-moll	19	20

1) 1～5の調号と主音を書きなさい。



2) 次の旋律の調の番号を答えなさい（複数ある場合はどちらか一つ）。

(1)

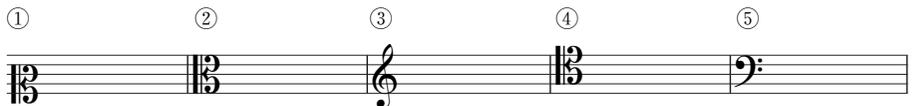


(2)



3) 3の表から次の指示に従って，調号を用いないで和音を楽譜に記入しなさい。

- ①  の属七の和音
- ②  の下属和音
- ③  の属七の和音
- ④  の属七の和音
- ⑤  の主和音

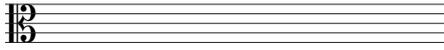


4) 次の指示された音階を調号を用いなくて全音符で記入しなさい。

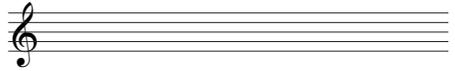
① 表 18 の和声的短音階の上行型

② 表 7 の音階の上行型

①



②



4 次の楽語の意味を答えなさい。

① risoluto    ② con brio    ③ pesante    ④ brillante    ⑤ dolce

① \_\_\_\_\_    ② \_\_\_\_\_    ③ \_\_\_\_\_    ④ \_\_\_\_\_    ⑤ \_\_\_\_\_

**解 答**

- 1 ① Fes, 変へ    ② Cisis, 重嬰ハ    ③ As, 変イ    ④ Fis, 嬰へ    ⑤ E, ホ  
 ⑥ Eses, 重変ホ    ⑦ His, 嬰口    ⑧ G, ト    ⑨ Ges, 変ト    ⑩ Dis, 嬰ニ
- 2 ① 長7度    ② 長3度    ③ 減6度    ④ 完全5度    ⑤ 増5度  
 ⑥ 短6度    ⑦ 減7度    ⑧ 長6度    ⑨ 減4度    ⑩ 重増5度
- 3 1) ①    ②    ③    ④    ⑤

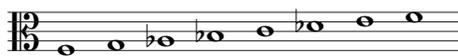


2) (1) 10    (2) 4 または 15

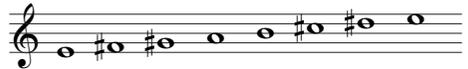
3) ①    ②    ③    ④    ⑤



4) ①



②



4 ① 決然と    ② 生き生きと    ③ 重々しく    ④ はなやかに    ⑤ 柔らかく

**解 説**

同校では、出題形式は年によって異なるものの、例年同一年内においてはほぼ同じ出題形式と出題内容の問題になっている。各年に共通して、問題および解答の双方に用いられる音部記号がさまざまであり、しかも頻繁に交代されるため、誤った音高の読み書きをする危険性が高い。

07年の問題は、(推薦入試) および (前期日程) とともに、音名の問題・音程の問題・近親調の問題とそれに基づく和音の問題、そして楽語の問題から成り立っている。

(推薦入試) では以下のようにになっている。

- 1 音名の問題  
 さまざまな譜表上に与えられた音のドイツ音名と日本音名を問う問題になっている。
- 2 音程の問題  
 さまざまな譜表上の2音について音程を問う問題である。常に同一の譜表上にある音どうしの音程なので、音の上下関係を見誤る心配がない。
- 3 音階と和音に関する問題  
 一定の法則に基づいて調が並べられた表に基づいて問題に解答する形式になっている。はじめに表を埋める段階で誤答するとそれ以後の一連の問題でも連鎖的に誤答する仕組みになっており、かなり思考力が必要とされる応用問題になっている。
- 4 楽語の問題

基礎的な問題となっている。

- 途中で音部記号が変更されるので、音高を読み誤らないように気をつけること。とくに⑤ではメツォ・ソプラノ記号が用いられているので要注意である。
- 前問と同様、途中で音部記号が変更されるので注意が必要である。⑤および⑥ではメツォ・ソプラノ記号が用いられている。
- 近親調についての確実な知識を必要とする応用問題である。

はじめに表のなかの  ～  を解答し、それに基づいて 1) ～ 4) までの問題に解答することになる。すなわちはじめに誤答すると連鎖的に次々と誤答することになるので、慎重に解答すること。

まず、「例」をもとにして、表がどのような秩序に基づいているかを調べる。

仮に「例」のなかの最下列に注目すると、左から右に向けて順に「ある調 x」→「x の平行調 y」→「y の同主調」という秩序に基づいて並んでいる。つまり、左→右の秩序は「平行調と同主調の関係」に基づいていることがわかる。

また、仮に「例」のなかの最左列に注目すると、下から上に向けて順に「ある調 x」→「x の属調 z」→「z の属調」という秩序に基づいて並んでいる。つまり、下→上の秩序は「属調の関係」に基づいていることがわかる。

問題の表では、まず最左下の e-moll と最左 3 段目の fis-moll に注目するとよい。fis-moll は e-moll から見ると「属調の属調」にあっており、「例」の下→上の秩序がこの表でもあてはまっていることがわかる。この秩序どおりに、e-moll に基づいて  (e-moll の属調) を解答し、同様にしてその上の fis-moll に基づいて  (fis-moll の属調)、 ( の属調) の順に解答する。さらに同様にして、左から 2 列目では最下段の G-dur に基づいて  を解答し、その上の A-dur に基づいて  と  を順に解答する。さらにまた同様にして左から 3 列目では最下段の g-moll に基づいて  ～  まで順に解答を進める。

次に、 を解答する。最下段の e-moll から g-moll までの並び方の秩序は「例」に見られた左→右の秩序と同じであるが、左から三つ目の g-moll でいったん完結している。そこで、この g-moll を起点として再びこの秩序を繰り返していくことになる。よって  は g-moll の平行調 (B-dur) になり、 は  の同主調 (b-moll) になる。

最後に、 に基づいて  ～  を、 に基づいて  ～  を解答すればよい。

結果として、完成された表は次の図のようになる：

gis-moll	H-dur	h-moll	D-dur	d-moll
cis-moll	E-dur	e-moll	G-dur	g-moll
fis-moll	A-dur	a-moll	C-dur	c-moll
h-moll	D-dur	d-moll	F-dur	f-moll
e-moll	G-dur	g-moll	B-dur	b-moll

- 解答に用いる音部記号が一つずつ異なるので、誤った高さに調号や音を書き込まないように、注意が必要である。
- (2)  と  はいずれも D-dur なので、そのどちらかを解答すればよい。
- 解答に用いる音部記号が一つずつ異なるので、誤った高さに調号や音を書き込まないように、注意が必要である。とくに①ではメツォ・ソプラノ記号が用いられているので要注意である。また、短調の和音では和声短音階の構成音をもとにして考えるのがふつうである。第 7 音を含む和音 (③と④) では、臨時記号をつけて導音にするのを忘れないようにすること。
  - ①では  (cis-moll) の属七の和音 (構成音は Gis・His・Dis・Fis の各音) を書けばよい。
  - ②では  (G-dur) の下屬和音 (C・E・G の各音) を書けばよい。
  - ③では  (h-moll) の属七の和音 (Fis・Ais・Cis・E) を書けばよい。
  - ④では  (d-moll) の属七の和音 (A・Cis・E・G) を書けばよい。
  - ⑤では  (b-moll) の主和音 (B・Des・F) を書けばよい。

◆楽典 (前期日程)

1 次の①～⑩の音のドイツ音名, 日本音名をそれぞれ答えなさい。

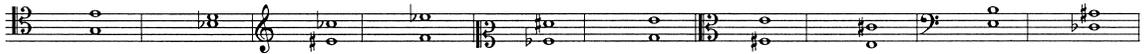
①            ②            ③            ④            ⑤            ⑥            ⑦            ⑧            ⑨            ⑩



ドイツ音名	日本音名	ドイツ音名	日本音名	ドイツ音名	日本音名
① _____	_____	② _____	_____	③ _____	_____
④ _____	_____	⑤ _____	_____	⑥ _____	_____
⑦ _____	_____	⑧ _____	_____	⑨ _____	_____
⑩ _____	_____				

2 次の①～⑩の音程を答えなさい。

①            ②            ③            ④            ⑤            ⑥            ⑦            ⑧            ⑨            ⑩



① _____	② _____	③ _____	④ _____	⑤ _____
⑥ _____	⑦ _____	⑧ _____	⑨ _____	⑩ _____

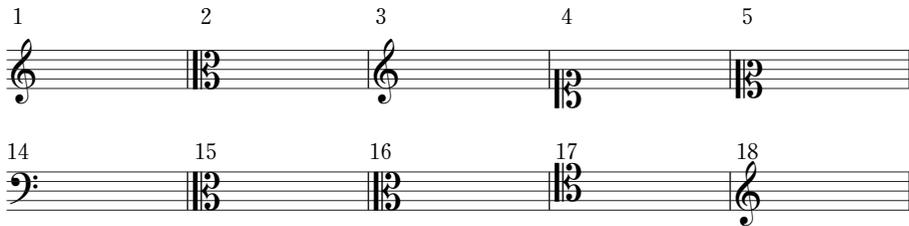
3 次の例にならい右の表を考え以下の問題に答えなさい。

例

e-moll	G-dur	g-moll
a-moll	C-dur	c-moll
d-moll	F-dur	f-moll

1	2	3	4	5
6	7	8	9	10
A-dur	11	12	13	14
15	16	17	f-moll	18
G-dur	g-moll	B-dur	19	20

1) 1～5と14～18の調号と主音を書きなさい。



2) 次の旋律の調の番号を答えなさい (複数ある場合はどちらか一つ)。

(1)



( )

(2)



( )



- 途中で音部記号が変更されるので、音高を読み誤らないように気をつけること。とくに⑤ではメッツォ・ソプラノ記号が用いられているので要注意である。
- 前問と同様、途中で音部記号が変更されるので注意が必要である。⑤および⑥ではメッツォ・ソプラノ記号が用いられている。
- 近親調についての確実な知識を必要とする応用問題である。

はじめに表のなかの [ 1 ] ~ [ 20 ] を解答し、それに基づいて 1) ~ 4) までの問題に解答することになる。すなわちはじめに誤答すると連鎖的に次々と誤答することになるので、慎重に解答すること。

まず、「例」をもとにして、表がどのような秩序に基づいているかを調べる。

仮に「例」のなかの最下列に注目すると、左から右に向けて順に「ある調 x」→「x の平行調 y」→「y の同主調」という秩序に基づいて並んでいる。つまり、左→右の秩序は「平行調と同主調の関係」に基づいていることがわかる。

また、仮に「例」のなかの最左列に注目すると、下から上に向けて順に「ある調 x」→「x の属調 z」→「z の属調」という秩序に基づいて並んでいる。つまり、下→上の秩序は「属調の関係」に基づいていることがわかる。

問題の表では、まず最左下の G-dur と最左 3 段目の A-dur に注目するとよい。A-dur は G-dur から見ると「属調の属調」にあたっており、「例」の下→上の秩序がこの表でもあてはまっていることがわかる。この秩序どおりに、G-dur に基づいて [ 15 ] (G-dur の属調) を解答し、同様に A-dur に基づいて [ 6 ] (A-dur の属調)、 [ 1 ] ([ 6 ] の属調) の順に解答する。さらに同様に、左から 2 列目では最下段の g-moll に基づいて [ 16 ] ~ [ 2 ] を解答する。さらにまた同様に左から 3 列目では最下段の B-dur に基づいて [ 17 ] ~ [ 3 ] まで順に解答を進め、 [ 13 ] ~ [ 4 ] [ ] では [ 17 ] の右隣の f-moll に基づいて順に解答する。

次に、 [ 19 ] を解答する。最下段の G-dur から B-dur までの並び方の秩序は「ある調 x」→「x の同主調 y」→「y の平行調」となっているが、これは「例」の配列とは異なっている。「例」の左→右の秩序は「平行調と同主調の関係」であったことを念頭に置くと、 [ 19 ] は B-dur の平行調 (g-moll) または同主調 (b-moll) のいずれかになるはずである。ここで [ 19 ] とその上の f-moll との関係も考慮に入れれば、 [ 19 ] は b-moll になる。すなわち、左から三つ目の B-dur でいったん完結した「ある調 x」→「x の同主調 y」→「y の平行調」という関係を、再びはじめから繰り返していることがわかる。よって [ 20 ] は [ 19 ] の平行調にあたる。

最後に、これまで明らかになった秩序に従い、残りの [ ] を解答すればよい。

結果として、完成された表は次の図のようになる：

H-dur	h-moll	D-dur	d-moll	F-dur
E-dur	e-moll	G-dur	g-moll	B-dur
A-dur	a-moll	C-dur	c-moll	Es-dur
D-dur	d-moll	F-dur	f-moll	As-dur
G-dur	g-moll	B-dur	b-moll	Des-dur

- 解答に用いる音部記号が一つずつ異なるので、誤った高さに調号や音を書き込まないように、注意が必要である。とくに⑤ではメッツォ・ソプラノ記号が用いられているので気をつけること。
- (2) [ 3 ] と [ 15 ] はいずれも D-dur なので、そのどちらかを解答すればよい。
- 解答に用いる音部記号が一つずつ異なるので、誤った高さに調号や音を書き込まないように、注意が必要である。とくに④ではメッツォ・ソプラノ記号が用いられているので要注意である。
  - ①では [ 6 ] (E-dur) の属七の和音 (構成音は H・Dis・Fis・A の各音) を書けばよい。
  - ②では [ 7 ] (e-moll) の下屬和音 (A・C・E の各音) を書けばよい。
  - ③では [ 8 ] (G-dur) の属七の和音 (D・Fis・A・C) を書けばよい。
  - ④では [ 10 ] (B-dur) の属七の和音 (F・A・C・Es) を書けばよい。
  - ⑤では [ 20 ] (Des-dur) の主和音 (Des・F・As) を書けばよい。